

樟美会トピックス

文化祭「現代の教育問題」学習会で 葛目巳恵子会長（15期生）が 後輩生徒におはなし

昨年の文化祭で2年生のクラスが取り組んだテーマ「現代の教育」について、現在小学校教諭で 大阪大学と大阪千代田短期大学で非常勤講師をされている葛目巳恵子先生（樟美会会長）が、専門家として後輩たちの教室でおはなしをしました。



<著書>

「悪い子なんておらへん」「学校崩壊 かわる教師かえる教室 第2巻 小学校低学年」「窓をあけると虹の空」



「悪い子なんておれへん 子どもの言うこと、することには理由がある」

「私は小学校で30年間教師をしてきましたが、悪いことをする子はおっても、悪い子なんておらへん、子どものすることには必ず理由がある、と言いつけてきました。」と、クラスのこどもの話を例に語りかけ、励ましながら、自分からすすんで変わろうとする力を引き出す教育の大切さを語られました。

「どの子も伸びる」 千代田の教育は、あきらめない先生たちの努力が支えてきた

「点数がわるくて学習の中で心が傷ついた経験がある人もたくさんいると思いますが、千代田の教育は、自分は何ぞ学ぶのかを考え、目標をもってすすんで学べるようになる力を育ててくれます。だから、みなさんがこういうすばらしい学習ができる力をつけているのです」。

「自らすすんで学ぼう」 千代田高校で学べることに、自信と誇りをもって

葛目先生は、高校時代を振り返って「どうせ、自分なんかあかんわ」と思っていた自分が、思ってもいなかった力をもっていたのだと気づかせてくれたのは、「絶対にあきらめない千代田の先生たち」だった。「どの子も必ず変わる、伸びる」という確信をもった千代田の教育の伝統は「今も引き継がれ、輝いている」と語り、「ここで学ぶことに自信と誇りをもってほしい」と後輩を激励しました。

約50分間のおはなしのあと、後輩たちは葛目先輩に感謝の言葉を送り「こんなに一人ひとりを大事にするすばらしい先生が先輩だとわかってとてもうれしかった」「千代田高校は、おぼえる勉強ではなく考える勉強。なにを学んだかということを大切にしているから、文化祭ノートや充実ノートに取り組むんやとわかった。がんばってやって成長したい」など、クラスみんなが感想文を書いていました。